

月報

岡崎の教育

5月号



「角は破損のもととなるわなあ」

「物理学上から見て

世の中に絶対というものはないわなあ」

本多光太郎傳より



昭和50年5月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会

(はくらで作ったこいのぼり・恵田小)

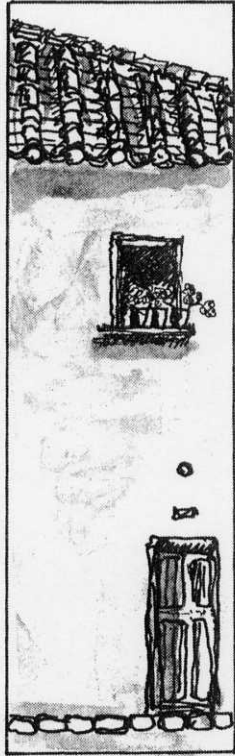
考えてみると、児童相談の仕事に、専門にたずさわるようになってから、すでに十八年たっている。この間、何人くらいの子どもに接したか、その数はもう数えることもできない。非行、登校拒否等の心理的、性格的に問題を持った児童、心身に障害を持った児童等々。

これらの、いわゆる問題児と、その親たちと会っていると、生きることのむずかしさ、切なさをつくづくと感じる。

人は、病気になった時に、あらためて健康の意味を問いただすものであるが、この子どもたちに接していると、「生きる」ということの意義を、絶えず考えさせられる。

それにしても、人間は傷つきやすく、弱いものである。

例えば、最近問題になっている登校拒否児は、依頼心が強く、わがまま、未熟幼稚で、学校へ行かねばならないことは十分に承知しているのに、どうしても行けない。理屈でわかっているにもかかわらず、感情（気持ち）がつかない。自分で自分がどうにもならない状態である。



— 教育随想 —

生きることの不思議さ

児童相談18年の
経験を通して

竹内 清

行かなければと、あせればあせるほど行った時の心配や不安も強くなり、どうしようもない葛藤状態に落ちこんでしまう。

その他、非行、乱暴、緘黙、孤立等の心理的、性格的問題を持った児童は、みなこのように、精神的に悩み、苦しんでいる子どもたちである。

このような問題の原因は、その児童の生い立ちの中にあり、特に親子関係の影響が大きい。「問題の子」は「問題の親」

「問題の家庭」からと言われているとおりでである。

その児童を治す場合も、親が勉強し、変わってこない、子どもの方も治ってこない。たとえ一時的に治ったようにみえても、再発することが多い。中学になつてから、登校拒否で相談にきた子どもを調べてみると、大抵、保育園・幼稚園・小学校時代に、登園・登校拒否があったり、その他の問題があつたりする。

親が変わり、家庭が変わらなければ、子どもも治ってはいかない。それほど親の影響は大きく、よいにつけ、悪いにつけ、子どもはそれらをまともに身に受けて育っていく。

学校へ行けずに、家の中であればたり、しょんぼりしたり、いいわけに苦心したりしている子どもを見ると、「ああ、人間とは弱いものだ。ここにも傷つき悩んでいる子どもがいる。」と暗い気持ちにさせられるとともに、何とか治してやりたいたの意欲も湧いてくる。

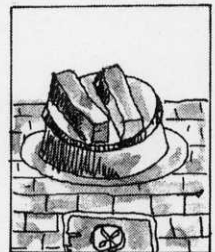
しかし、また考えてみると、こんな苦しみを味わいながらも、何とか生きて行くこうとしており、逆にそれだけ強いと言えるのかも知れない。その強さが、治療のより所ともなっているのだから。

生きるということは、不思議な現象だと思つづく。

(県立愛知学園長)

いまはむかし

保 健



うすいも

・大正末期から昭和初期の小学校では、卒業証書の裏側に、種痘の日付けが入っていた。二回の種痘が義務づけられ、これを済ませて、はじめて義務教育修了を正式に認められたわけだ。

・通りを歩くと、「うすいも」のある人を見かけることもまれではなかった。痘瘡のこわさを社会が知っていたのである。
星とめがね

・昭和四年。田舎の小学校では、初めての視力検査を実施。めがねというものをかけたほうがいい、と先生に言われ、びつくり。かすりの着物にはかまをはき、ゴムの靴で盛装、町のめがね屋へ。

・夜、便所に行き、空を仰いでぶつたまげた。「おかあさん、お星様ってたくさんあるんだなあ。」と、家の中へ駆け込んだ。十歳になるまで星の数も知らなかったという、息子の無邪気な顔を見て、母はぼろぼろ涙を落とした。

頭から浴びたDDT

・終戦直後の学校は、どこから湧いてくるのか、子どもたちが運んでくるシラミ



キレイ・キセキレイ・タヒバリ・ピンズイの四種である。分類学上ではスズメ目に属し、いずれも長めの尾を上下に振り動かす可愛い小鳥たちである。

次にハクセキレイのなかまたちを紹介しよう。

●セグロセキレイ ハクセキレイに姿や習性は似ているが、全体に黒っぽく、目の上からくびにかけて白い模様が見られるのでそこで区別する。留鳥（渡りをしていない鳥）で、公園や工場などに営巣し、市内で年中見うけられる鳥である。

●キセキレイ この鳥も留鳥でよく見かける鳥である。胸から腹にかけて黄色く、尾を上下に動かして「チチン・チチン」と鳴きながら波状に飛ぶ。

キセキレイはなわばり意識の強い鳥である、かつて私の学校の駐車場に止めてある車のうちで、沢に近いところに止めてある一台にだけ、いつもバックミラーの周囲がふんでよくれたことがある。犯人はこのキセキレイであった。私の観察していることも知らず、彼は終日バックミラーに向かって大奮闘していた。

●タヒバリ 水辺の草むらに少数の群をつくって生活する冬鳥である。姿はヒバリに似ているが、地上にいるときは他のセキレイと同じように尾を動かす。

●ピンズイ タヒバリに似ているがやや小型で、キヒバリの別名がある。樹上で尾を上下に振りながら鳴く。山地で繁殖する鳥だが岡崎公園などで四月末

まで見かけられたことがある。

岡崎市には、このセキレイのなかまたちのほかにみずいぶん多くの野鳥が棲息している。私の勤務校でも、ことしは校庭の樹上にカワラヒワやヒヨドリが巣をつくった。

「とりキチ」と呼ばれながら、望遠レンズ、三脚を含めて総重量七キロのカメラをかつぎ、ひまさえあれば草の中を歩き廻る。先日、渡り鳥のノビタキが頭上を渡るころをカメラに収めた時の興奮は何ともいえなかった。

われわれ「野鳥調査班」がこのようにして昨年一年間に市内で姿を確認した数は、矢作川を中心にして三十一科八十種にものぼった。この数はまだまだ増す可能性がある。われわれは専門家ではないが、今後も地道に記載を続けていきたいと思う。

(矢作中 伊藤安彦)



—千潟であそぶハクセキレイ—

があとを絶たなかった。刺されると、ぷくんと赤くはれあがり、とてつもなくかゆい。授業の始まりを待っていたかのようには、もぞもぞとはいまわるのが、いかにもこ憎らしい。髪の毛からはい出たところをカキ大将に見とがめられ、おんおん泣き出す女の子。クラスの二、三割にものぼる子どもが、毎日この吸血寄生性の昆虫に悩まされたのだ。小学校低学年の担任ともなると、子どもにとびつかれると、思わずぎくっとして、陰でそっと衣服を改めることもあったという。

●朝の健康観察は、シラミの検査。髪の毛や衣服の縫いめには、卵がびっしり。さっそく廊下に並べて、DDTの散布。進駐軍配給のこの薬は、実によく効いた。新聞紙を広げ、竹や木のすき櫛で、シラミをとってやるのも養教や担任の日課だった。

保健室への訪問者

・ここ数年、子どもの訴える症状の裏に、かくされた問題のあることに養護教諭は気づいている。からだの具合を尋ねてもとんちんかんな返事がかえってくる。ベッドに寝かせると、こそこそと落ちつかない。小学校では、給食の嫌いな子、忘れ物の常習者に多いとか。中学校では、嫌いな教科を敬遠、ひそかに避難してくる。一様に腹痛を訴えるのが特長。「ああ、これは生きている証拠の熱だよ」と、やりわり論される子もふえてきた。

(稲吉正春・西浦とし子・糸津る代、) (その他大ぜいの先生のお話から)

第2回 岡崎 こどもまつり

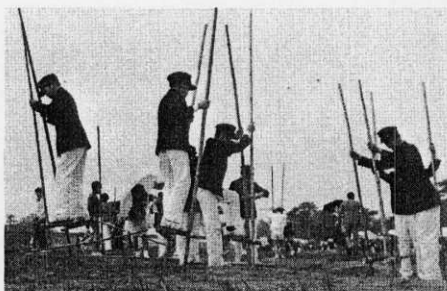
5月3日



小雨まじりの五月三日、市長や生徒代表らの手によって、第二回こどもまつりのテープは切られた。

菅生河原にはステージコーナー・スポーツコーナー・金魚すくいコーナー・作って遊ぶコーナー・交通コーナーなど、盛りだくさんの催しが岡崎っ子を待ち受けた。雨にもかかわらず約三万人の小・中学生や父兄が参加し、終日賑やかな笑い声が河原いっぱい響きわたった。

中学生が小学生の手をとって共に遊ぶほほえましい姿も各コーナーでみられ、「とてもみんなが楽しんできた。大成功であったと思う。来年も悪いところは直して、もっと立派なものにしていきたい」という生徒代表のたのしい結びのことばで幕がおろされた。



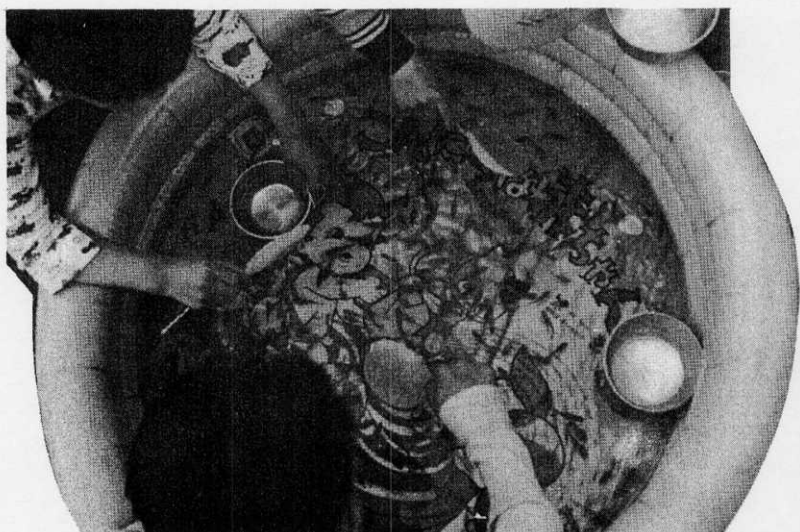
▲雨の開会式

▲「ぼくよりもすごいや」
—スポーツコーナー—

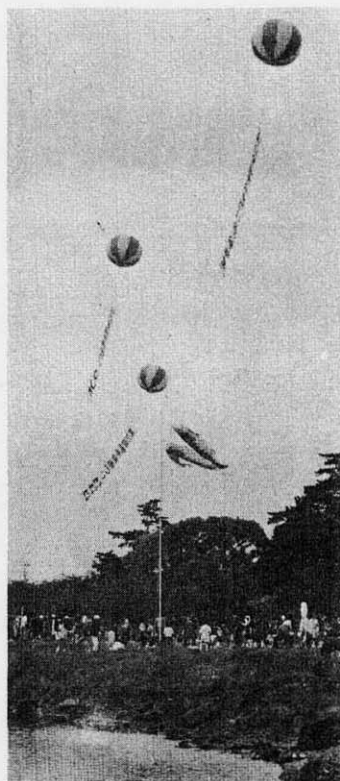
◀ やつと立てたぞ

◀ 「どれにしようか」
—金魚すくい—

▼ おねえさんといっしょに



- ▶アクションもあざやかな
女子中学生
- ▼教育大生とともに
- ▼歌っておどって
- ▼「いちどやってみたかったよ」
—トランポリン—



▲城より高く

現代における人間形成の問題点

愛知医科大学

久 徳 重 盛

小児科医の立場として、子どもがどのような形で人間形成を遂げていくか、また、その場合、今の世の中ではどこか、どこか、問題があるのだろうか、ということでお話をさせていただきます。

昨年の五月に、英国の精神医学協会から、今年の三月に国際会議があるから話をしてくれ、と頼まれたんです。何の話をするのか連絡したら、日本の国がどうして育児がへたになったか、その話をしてもらいたい、というのです。

みなさんもご存知だと思いますが、約二十年前までは、日本が世界でもいちばん育児がじょうずだといわれていました。けれども、現在では、世界でいちばんへたではないか、と言われているんです。わずかに二十年ぐらいたの間、これほど急激に育児がへたになったのは外国にもごさいません。実は、経済成長にも文明の進歩にも非常に関係があ

るのですけれども、なぜ文明が進むと育児がへたになるか、ということ、今のところ外国でもそんなにはつきりしていません。

人間形成そのものが、小児科の立場で比較的良好にわかるようになり、また、脳の生理学の立場で子どもの成長発達をある程度理解できるようになったからです。

古い脳の基礎ができますのが、零才から一才ないし三才です。特に一才までというのが非常に大事です。今では零才保育とい

われていますが、果たしてできるかどうか学問的に実証されていません。私たちは零才保育のことで相談を受けますと、「まだ親から離して他人が子どもを育てることは、子どもに害がない」ということが実証されていないから、自分の子どもを実験材料に差し出すんではたらやってもよいけれど、そのぐらいたの覚悟でやりなさい」と、お話するん

です。年齢の小さい時ほど親がいないと危ないことは当たり前です。年齢が大きくなるに従って親から離れていかなければいけないのです。

ところが、今の日本はこのあたりが非常に狂っているというか、価値判断がゆがめられておりまして、赤ちゃんの頃に独立心をつくるからといって、ペビ

ーサークルに放りこんじやつておるかあさんがいます。子どもは親に抱きつかないと寝られないようにできていますから、親のかわりにタオルを持つたり

毛布を持つたりします。夜のおかあさんがタオルか毛布です。だから、おかあさんがサークルの外で、「ああ、わたしは母親

ですわよ。」と言っても、赤ん坊から見れば、あんなのは夜の母

親じゃない、ということになるわけです。ですから、そのタオルなんかを取り上げたりしますと、赤ちゃんはとっても泣きま

それから、今の学童で私たちの立場からもっと希望したいのは、冬でもなるべく短ズボンでやっていたらいい、タイツはかせない、ということ。冷たい刺激は健康にプラスになりますけれども、暖かい刺激はプラスになりません。人間のからだはたんぱく質でできていますから、暖かい方でしたらたまたごと同じように熱を加えればたんぱく質は変質してしまいます。

そうしますと、赤ん坊の頃から独立心だといまして、それではうまく独立しながら子どもが育つかといえますと、十五か

よく考えますと、今の日本の子どもはみんな暖め過ぎて、栄養がよすぎて、運動がたりなくて、非常にあぶないということです。栄養も、これ以上あつてはいけないと思います。

そういうわけで、だんだん成長して親から独立して離れるということですが、文明が進んで狂っ

てきてしまいました。

「ここは美合の職員室、緑丘は北舎のほうよ。」

時・昭和五十年四月十五日
現職教育委員会総会

かがみ

ことばの端々に

河 合 充

「先生、先生……」美合の職員室へやって来た緑丘の3年生。受持ちの先生を探してキョロキョロしている。

「ここは美合の職員室、緑丘は北舎のほうよ。」

「あつ、そうだ。」

と、照れくさそうに飛び出していく。その後姿がほほえましく、ついせんだつてまでの美合のくらしがそのまま漂う。

緑丘の3、4年生は、美合の子たちと校舎をともにしており、運動場でも廊下でも、同じ学校のように仲よく肩を寄せ合っている。

クラスの子たちは、やがて緑丘へ移す木の葉をなぜながら言う。

「先生、緑丘へお手伝いに行くのは、いつ？早く行こまいね。」

両校がいつまでも仲よし兄弟校であつてほしいと願わずにはいられない。」

(美合小)



市の花

「緑化日本一」三年目は竜海中

本年度学校環境緑化日本一に竜海中が選ばれ、五月二十五日、滋賀県栗東町で開催される全国植樹祭の席上、文部、農林両大臣賞を受ける。一昨年の城北中、昨年の井田小に続く三年連続は全国でも初めての快挙で本市の学校環境の緑化、保全活動の充実を裏付けたもの。

同校の緑化の歩みは創立時にまでさかのぼるが、これまでに校地七千七百坪中四二%の緑化が進んでいる。中でもみことなのは校舎前の大庭園。躍竜の池と希望の泉を配し、芝生と岩石がほどよく調和するそれは、竜海中の「創造と調和」の精神を表わし、伸び伸びと美しい。

緑化は、これまでもほとんど生徒、職員、父母の創意と労作によったものだが、受賞後もさ

【寄贈研究物・資料等】

- ◇さし木、播種、育苗による学校環境緑化（環境緑化研究委）
- ◇教員備品の管理運営のために（小中学校校務主任会）
- ◇岡崎の技術家庭科作品集第一集（技術・家庭部会）
- ◇おかさきのL.L.—英語学習の

現代化をめざして（英語部会）

- ◇道徳教育研究のまとめ（中学校道徳部会）
- ◇中学校社会科フィールド・ワーク（地域学習の地点と視点）
- ◇研究集録「書」（書写部会）
- ◇国語学習の手引（国語部会）

らに協力して豊かな環境づくりをと新しい計画が進められている。

■教生受入れ校決まる

六月と十月は大学生の教育実習の季節。本年度の実施期日と受入れ校がそれぞれ次のとおり決まった。

- 【愛知教育大】▽副免実習（6月9日～21日）Ⅱ甲山、城北、福岡、常盤の各中▽主免実習（10月6日～11月1日）Ⅱ男川、三島、連尺、梅園幼▽小学校養護実習（6月9日～28日）Ⅱ羽根、山中、秦梨▽中学校養護実習（主免実習と同じ）Ⅱ美川、竜海【県立総合看護学院】▽小学校養護実習（6月2日～28日）Ⅱ井田、竜谷【県立大、私大、短大】▽第一期実習（6月9日

- 21日）Ⅱ若津、矢作の各中▽第二期実習（10月6日～18日）Ⅱ南中、竜海、葵中、香山、六ツ美中▽小学校実習（10月6日～11月1日）Ⅱ竜谷、生平（10月6日～18日）Ⅱ梅園、根石、井田小 ※県立総合看護学院と岡崎女子短大（小2週間）の教育実習受入れは本年が初めて。
- 小五校中三校が研究発表 五十年年度研究発表校の発表時期と研究主題は次のとおり。
- ▽九月・六ツ美中部小Ⅱ自主的な学習態度の育成（読書指導）
- ▽九月・香山中Ⅱみんなで見つめひとりひとりを伸ばす指導
- ▽十月・矢作北小Ⅱひとりひとりを生かす条件・美川中Ⅱ生活経験を豊かにするクラブ活動、
- ▽十一月・六名小Ⅱ記録のし方、活かし方の研究・広幡小Ⅱ自ら学ぶ力を育てる（国語）
- ▽十二月・男川小Ⅱ暖かい人間関係に立つ学習集団の育成・竜海中Ⅱわかる学習の深化と拡充

●50年度児童・生徒数、教職員数の実態

50・5・1学校基本調査より

区	分	学校数	学級数 ()内特殊	児童・生徒数			校長・教員数 (常勤講師を含む)			養護教員		事務職員	
				男	女	計	男	女	計	県	市	県	市
小	学	校	603 (26)	10,964	10,566	21,530	423	314	737	27	8	33	26
中	学	校	237 (12)	4,787	4,564	9,351	301	92	393	12	3	17	8
合	計	49	840 (38)	15,751	15,130	30,881	724	406	1,130	39	11	50	34
※	49年度計	48	810 (35)	15,051	14,531	29,582	711	377	1,088	34	15	46	36

○学校別児童・生徒数

小 学 校				中 学 校			
学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	2143	1991	4134	4年	1796	1698	3494
2年	2026	1952	3978	5年	1749	1750	3499
3年	1591	1602	3193	6年	1659	1573	3232

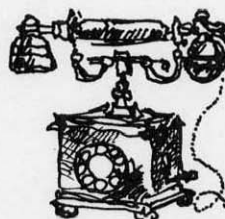
○学級、学校の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	615人	668人
1校当たり学級数	17学級	17学級
1学級当たり児童・生徒数	35.7人	39.5人

5月の行事

日曜	行	事
1 木	緑丘小学校完工式	
2 金		
3 土	(憲法記念日) 第2回岡崎こどもまつり(菅生河原)	緑化作品展表彰式、市民ラグビー祭り
4 日	市民年令別クラブ対抗軟式庭球大会	
5 月	(こどもの日)	
6 火	新任教員研修会(広幡小)	
7 水		
8 木	定例教育委員会(市役所) 本多光太郎展(14日まで美術館)	本多光太郎博士銅像除幕式と記念講演会(市民会館)
9 金	学校開放事業役員会(6階大会議室)	
10 土	小学校体育実技講習会(岡崎小)	
11 日	岡崎・額田地区中学生軟式庭球大会(公園コート)	ふじまつり協賛第4回弓道大会(公園弓道場)
12 月		
13 火	新任教員研修会(三島小) 現職教育世話係打合せ(市役所)	教育月報編集委員会(市役所)
14 水	教頭、教主、校主研修会(南中) 遊具についての打合せ(大樹寺小)	特殊学級担任者会(梅園小)
15 木		
16 金	教研推進委員会(婦人会館)	学校環境緑化用苗木配布(緑化センター)
17 土	三河部校長会総会(勤労会館) 小学校体育実技講習会(三島小)	井田緑の少年団結団式(井田小)
18 日	第19回岡崎市中学校総合体育大会	
19 月		
20 火	新任教員研修会(婦人会館)	
21 水		
22 木	教育委員学校訪問(常磐小、井田小)	
23 金	特殊教育推進協議会総会(婦人会館)	
24 土	養護部会総会(婦人会館)	
25 日	第26回全国植樹祭(滋賀県)市春季B級軟式庭球大会(公園コート)	第2回市民オリエンテーリング大会(東公園)
26 月		
27 火	新任教員研修会(岩津小) 中学校修学旅行開始(6月13日まで13校)	
28 水	定例校長会(山中小)	
29 木		
30 金		
31 土	県小中学校長会(県文化講堂)	

・カット 長坂正延 (福岡小)



この本を

- 笑いの構造 梅原 猛
角川書店 47・10 ￥ 680
- 涙をたらした神 吉野せい
弥生書房 50・4 ￥ 850
- 学校と世間 佐藤忠男・京極純一
中公新書 50・3 ￥ 360
- 地球的視野で生きる 高坂正堯
実業之日本社 50・2 ￥ 750
- ほんとうの教育者はと問われて
朝日新聞
朝日新聞社 50・4 ￥ 680
- 日本人の知恵 林屋辰三郎・梅棹忠夫
中央論社 48・3 ￥ 630
- 対人法学習 井上隆基
黎明書房 45・11 ￥ 750
- 現代科学と人間 湯川秀樹
岩波書店 49・2 ￥ 700
- 独学のすすめ 加藤秀俊
文芸春秋 50・4 ￥ 950
- 読んでください せんせい・先生
日本作文の会
あすなろ書房 49・4 ￥ 800

▲市内の「こどもの広場」一六〇箇所、一万余平方メートル。
みんなの広場 ― 手をつなごう
みんなの笑顔 ― 遊びを作ろう

▲講演「暖め過ぎない子に。」
便利は教育の低下を招く。

▲こどもの日小さくなりし靴いくつ
人間の成長パターンを凝視する
詩人の眼・教師の眼。
林 翔

寸 言